公民館長に就任して

山崎賢隆

この度、はからずも皆様方の御推薦に依りまして浅学の身も省みず館長に就任致しました山崎でございます。

ご指命を受けた時は、私はその任でないとかたく御辞退申し上げたのでございます。と申しますのは前田中館長は高い学識と深い経験とをもっておられ、終始公民館の為に熱心に御努力下さいました結果この様に発展をとげ、数多くの業績を残されたのでございます。従来と比べ、その任でないと考えたからでございますが、再三のおすゝめ長い間の空席、等を考え合わせ無能な私でも見よう見まねでなんとか勤めさせていただけるかもしれないと存じ、お引き受け致した様な次第でございます。

今後の活動観に就きましては、歴代館長の築いた運営方針に基づいて老若男女をとわず、教養、趣味のつどいの場所として、又健康の基礎である体力作りにスポーツを通じて明るい地域社会作りに励み度いと思って居ります。又、皆様御承知の通り、昨年四月統合小学校が誕生し、学区の活動が分館中心になって居る今日この頃、その活動に対して非常に関心をもち、大いに期待致しております。

幸いにして、前館長は教育長として、又副館長に練達な角田さんがおられ、各委員会分館役員にも経験のゆたかなお方が多数おいでになりますので私も非常に心強く思っております。皆様の御協力に依り、俺らが公民館、私らの公民館、と皆が自負出来る明るい公民館になる様に努力してゆき度いと思っておりますので、今後共宜しく御指導御鞭撻を重ねて御願い申し上げます。

簡単でございますが、これをもちまして私の新任のご挨拶といたします。

海外研修視察記③

オークランドのホテルの前で

私達の初めての海外研修旅行は、ハードスケジュールの中で進行し続けました。その為か人割位いの人達が風邪をひいてしまったのです。しかしながら、幸い大した事もなく持参した薬で間に合い全員行動を共にする事が出来ました。

これと云うのも当地は、非常に気候の変化が激しく、朝起きた時青空が見えると思うと、朝食後ホテルを出発する時には、雨が降っているという具合で、日本人の私達が順応出来にくかったようです。

気候は、こちらは南半球ですので、日本と全く反対の春で温度も少々高い程度でそんなに困らないのですが、季節の移り変りの時期のようでした。

この様な当地オークランドも、二十一日のオークラント市長表敬訪門を終え、二十三日に行われた教会での交歓会を残すのみとなりました。ここでは、現地の青年達と交歓を行い、私達は事前に練習して来た佐渡おけさ等の民謡と日本の伝統的な歌である「さくら、花」を披露しました。

私は、この国での研修中に本当に誠意あるガイドを勤めてくれた函館出身のまさこ・ハイランドの夫でのあるという大変日本ひいきの人と、お互いの国について、又個人的な事について色々話し合いました。

時々「パードン」と言いながらも、何とか意思疎通も出来た次第でした。

彼は日本のシチズンの腕時計を持ち、そして日本製の車であるカローラに乗っていました。そして、仕事は、海洋学の研究家として大学で働いているそうです。

彼は、日本人について「大変賢明な民族であり、尊敬の念を持っている。」と言っています。この事については、彼だけでなく、ニュージーランド人が、一般的に持っている日本人に対しての言葉なのです。研修後の自由時間に町の中を歩いている時に人と接してみてよくわかりました。

従って日本人は、この国に於いては、大変居心地が良いと思います。

さて、ここでニュージランドのオークランドでの研修を終えるに当り、私の感想を述べたいと思います。

一言でいうならば「地上の楽園、天国」と言っても過言でない様な気が致します。すなわち、食べ物に関して言えば、牛肉、ミルク、果物等豊富にあり、本当においしいのです。それに経済大国日本に比較して農業国のせいか、国民が素朴で、非常に人なつこく、そして、私達日本人に非常に親切にしてくれるのです。又へびのいない、そして泥棒のいない国なのです。

例えば、日本人が、旅行中に財布を落した事があったそうですが、一週間後に出て来たそうです。この様に必ず見つかるのです。エコノミックアニマル、日本人には、少々理解しがたいのではないでしょうか。

この国では、大臣の婦人といえどもウエートレスをやったりしていて、だれでも職業を持っています。そして仕事は安定しておらずしばしば変わるそうです。この様に婦人が仕事を持つというのは、婦人の地位向上の為だそうです。

ところで、この国の夫は、「キウイハズバンド」と言われています。つまり、キウイという鳥は、ダチョウ位の大きさなのですが、ふ化するのに八十日間位要し、その間オスが絶食して玉子をあたためるそうです。それに対してメスは、何もしないので太って

ヘビのいない地上の楽園

藤山田村泰一

いるのです。この様な状態の事を形容して言ったのです。彼等は、この鳥のオスの様に女性に縛られているのです。私達は、バスの中から一日の仕事を終えて帰宅途中の忙ぎ足の一人の男性を見つけました。するとガイドさんが次の様に説明してくれたのです。

「彼は、あの様に仕事を終えると真直ぐ帰り、そして、家では夕食の手伝い、つまり、主食であるジャガイモの皮をむいたりし、夕食後は、子供をお風呂に入れたり等するという様に、日本の男性にして見れば耐えがたいでしょう。」と言っていました。

さて、この様にしてこの地での研修を終えるに当り大変良いガイドさんに恵まれ別れも切なく、彼女から教えて頂いた「マオリの歌」を私達は、お土産に次の訪問地であるキャンベラへシドニーを経由して向いました。

前館長 退任のあいさつ

田中郎

昭和四十六年七月から約六年間、公民館長として務めさせて頂きました。この間、子どもたちから高令者の皆様方まで親しくおつきあいをさせて頂いて、ほんとうに有難うございました。

あるいは生涯教育といゝ、又公民館のコミュニテー活動に果す役割といゝ、社会教育、公民館の存在が浮き彫りにされてきたことは、その役割の比重の重さを裏ずけするものでありましょう。社会教育の充実は、村の発展の基盤として重視されていくものと思います。

昨年十月から公民館長を兼任させて頂いておりましたが、この度、山崎新館長さんが選任され、二月から交替させて頂くことになりました。

公民館活動はアイデアが大切といわれておりますが、新鮮な若い感覚をもってその進展をはかられるものと期待しております。退任致しましても教育委員会におりますので是非又お仲間に加えて頂きたいと存じております。

長い間いろいろと御迷惑をおかけしておったと思いますがお詫び申上げると共に、御礼申上げる次第であります。本当に有難うございました。

〝もうすぐ一年生〟

就学前児童の身体検査と知能テスト

新しい横越小学校の一年生の身体検査と知能テストが、一月二十六日小学校で行われました。

お母さん方につきそわれた子どもたちが、新しい期待に胸をふくらませながら元気に中には不安気に身体検査と知能テストを受けていました。

こんどの入学生は一二二名（男子六三名、女子五九名）三学級編成になります。入学までに健康に注意して全員元気で入学式に出席できるようにお願いします。

新の春の俳句の大の会

優秀作品生れる

総合では兼題第一位佐藤藤泉、第二位佐藤志穣、第三位今井夫子、席題第一位今井秀虹、第二位市村正、第三位佐藤志穣の各氏がそれぞれ優秀な成績をあげられました。

一月二十三日、新春俳句大会が公民館で開催され、新人をまじえて多数の同好者が集って席題（春着、寒夜、寒餅）にいどみ、優秀な句作をものにされました。公民館長、文化団体協議会長のあいさつ、選者代表として小林竹生さんの選評などを終り、新年の祝杯を傾けながら俳談に花を咲かせました。

1初髪の句う乙女と　佐藤藤泉
　バスを待つ
2半版の手彫り楽しや　増渕一路
　年賀状
3砂利船に注連縄張って　市村正
　阿賀静か
兼題の高点句です。
1縫い了へて着て見し　今井南呂
　春着鏡中
2進学一すじ寒夜の　今井秀虹
　灯にはげむ
3薬缶牛舎に下げて　市村正
　寒の夜
席題の高点句順位です。

『茶道教室』開く

小杉分館

去る一月二十三日、小杉分館では法輪寺において茶道教室を開きました。日曜日でもあり又良い天気のせいもあって、二十五名の婦人参加がありました。

この講座は婦人学級生のためにひらかれたものです。最初、中川分館長のあいさつ、ひきつづいて先生方の紹介。

（先生はいずれも村内地元の方で、佐藤スイ先生、佐藤君子先生、山崎志枝子先生）

三人とも流派は裏千家。婦人学生の中で多少心得のある人もいましたが、始めての人もかなりいました。

一通り話を聞いてから、さっそく先生方から教えてもらう。まず、手のつき手、手のくみ方、茶室へ入る時の席入れの仕方、部屋の拝見の仕方全員部屋に入ってから、客をリードする役目を受けもつ正客に（しょうきゃく）ついて説明を聞く。

説明のあと、お菓子がだされた。懐紙の置き方や、次客にあいさつする動作を習う。つづいて水屋から茶が運ばれてくる。先生が茶わんの持ち方、のみ方を細く注意をしてくれる。感謝の仕方、飲み終って茶わんの拝見の仕方等なかなか細かしいきまりが身につかない。時々活発な質問や又おもわずふきだすようなことがおきる。あまり緊張したなかで習うより、気楽に教えてもらうのも楽しいものだ。

一通り習ったあとで、三人の先生が一席手本を見せてくれた。歩き方や体の動かし方についての繊細な動きに感心させられた。

終って先生方と点心（てんしん）（茶席にだされる軽い食事）をいただきながらいろいろ茶道についての話を聞かせてもらいました。

小出さんら三人

全国青研へ

日本の全国の青年が一同に会する、第二十二回全国青年問題研究集会が来る三月十一日から三日間、京都市立会館大学を中心にした会場において開催されます。

当村の青年団も会員数は少ないのですが、その活動は県下においてもトップレベルであり、今後の活躍がより期待されています。

先の県青年団問題研究集会でも次の三人が推薦され京都へいくことになりましたのでお知らせします。

小出雅雄一郎　25才　小杉
斎藤　秀男　23才　沢海
佐久間久子　22才　機織